



自衛隊栃木地方協力本部

2024 FIM MotoGP世界選手権シリーズ 第16戦日本グランプリで広報展！ ～F-2展示飛行でイベントを演出～



販うブースの様子



記念撮影を楽しむ来場者



自衛隊の説明を受ける来場者



憧れのパイロットと記念撮影（左：木村3佐）



サインに応じる木村3佐に行列ができた。

自衛隊栃木地方協力本部（本部長 加藤 浩一陸佐）は10月6日（日）、モビリティリゾートもてぎ（芳賀郡茂木町）で開催されたモーターサイクルレースの最高峰「2024 FIM MotoGP世界選手権シリーズ第16戦」において、広報展を出展し、航空自衛隊第4航空団司令部（松島）のF-2戦闘機展示飛行を支援した。

当日はレース前から多くの来場者が訪れ、顔出しパネルや防衛記念章、航空自衛隊の階級章などの撮影や制服試着をして楽しんでいった。特にF-4のシロトルと操縦桿の展示ではシロトルレバーや操縦桿を握り、「どうやって操作するのですか？このスイッチは何ですか？」と夢中で操作していた。また、展示飛行の地上要員として支援をいただいたF-2戦闘機パイロットの2人（木村 孝志3空佐、島雄 渉3空佐）が、広報ブースを訪れ、サインや記念撮影に応じたほか、展示品の操縦桿説明をするなど大好評であった。開会式でF-2戦闘機が会場上空を飛行した場面では、雨が時折ちらつく天候となり、来場者が空を見上げて待ち構えていたが、雲の上空を通過するF-2のダイナミックな轟音で観客に伝えるにとどまった。「F-2の通過音すごかったです！雲が低く見れなくて残念だったけど、爆音で開会式が盛り上がりました」等の声が聞かれ、イベントに花を添えることが出来た。レースの様子は全国、さらにはヨーロッパ、アジア圏に向けて放映されることもあり、世界にF-2戦闘機の魅力をアピールすることが出来た。

栃木地本は「今後も各種イベントを通じ自衛隊の魅力を積極的にアピールして、自衛隊への理解の推進を図っていく」としている。



シロトルレバーや操縦桿の説明をする島雄3佐



顔出しパネルを楽しむ



F-2飛行展示を見守る地本長（中央）と空自地上要員（右側）